

環境教育実践

インタープリテーションと森林再生

日時：平成26年11月22日（土） 10:00～15:00

講師：酒井 立子（よりあい工房ばんどり プロナチュラリスト）

概況



科目名：環境教育実践 インタープリテーションと森林再生

講師：よりあい工房ばんどり プロ・ナチュラリスト 酒井 立子 氏

午前中：座学

「環境教育」とは、環境問題を解決する方法の1つで、自ら考え、判断し、行動する市民を育てることを目的としている。

「森林環境教育」とは、In(森林の中で)、About(森林について)、For(森林のために)を基本とし、森と人との関わりや、循環型社会、森林の多面的機能について学ぶ。誕生した背景としては、環境問題、森林・林業の問題、教育の問題、暮らしの問題があったことによる。

「インタープリテーション」は直訳すると、通訳、解釈、説明を意味するが、環境教育では自然と人間の間に通訳・橋渡し役を意味し、自然のメッセージを人に伝え、見えるものを通して見えないものを伝えることが目的となる。

「インタープリター」は「伝える人」を意味し、伝えるために大切なことは、楽しませる、興味をそそる、考えさせることであり、わかりやすさ・身近さ、響くことば、伝える道具が重要となってくる。

午後：幼児森林体験フィールドにおいて実践

受講生はA～Fのグループに分かれ、こども向け森林環境教育のミニプログラムの企画・発表が行われ、発表中は他のグループの受講生全員が子ども役となり参加しました。

A班は、「ひつつき虫のひみつ」をテーマに、形の特徴の説明や、ルーペを使って見ること、付着する理由などについて発表されました。

B班は、「工作」をテーマに、森の中にある枝や葉っぱ、どんぐりなどを使った工作の例示、実践などについて発表されました。

C班は、「森のかくれんぼ」をテーマに、色分けした爪楊枝をエリア内で探すゲームや、森の中に色々な色があることなどについて発表されました。

D班は、「植物の香り」をテーマに、においのサンプルを嗅いで、同じものを森の中で探すゲームなどについて発表されました。

E班は、「森を切りぬこう」をテーマに、フレームを使って、参加者が風景の一部を切り取り、一番面白かった人を決めることなどについて発表されました。

F班は、「ロープでサバイバル」をテーマに、ロープを使った結び方の実演や、使用する場面などについて発表されました。

最後に酒井先生から総括があり、「伝える」ことがインタープリテーションであり、森のことに関心がある人を増やしてほしい、というコメントをいただきました。